

モンゴル国における
技能実習と特定技能送り出し事情調査のご案内



ウランバートル鉄道1956年開通
中国エレンホトからロシアのナウシカまでウランバートル経由の1815キロの鉄道
鉄道の開通によってモンゴルの近代化が始まりました

2024年8月1日

モンゴル調査団派遣の目的・内容

目的

外務省のモンゴル国基礎データによると、モンゴルの基本的な外交方針は、隣国である中国とロシアとのバランスの取れた外交関係を展開しながら、両隣国に過度に依存することなく「第三の隣国」との関係を発展させることと記載されています。中でも、日本との関係は特に重視されており、様々なレベルでの交流を通じて二国間関係を強化しています。

総人口345万人、平均年齢26.6歳、国土面積156万4,100平方km（日本の約4倍）の親日国です。国土が広く人口が少ないために産業の発展が難しく、若年層にとってはモンゴル国内での就業が難しく、海外への出稼ぎが多い傾向にあります。

そこで当財団では、日本での技能修得を目指す技能実習及び特定技能の制度に関する現地での考え方や今後の展望についての諸事情を調査するため、「モンゴル国における技能実習と特定技能送り出し事情調査」としてモンゴルへ調査団を派遣することとしました。

内容

今回の調査では、以下を予定しています。

- 技能実習生及び特定技能人材の送り出し機関を訪問し、介護職種分野を中心とした送り出し教育の状況、障がい者及び高齢者福祉施設を視察
- 在モンゴル日本大使館及びモンゴル政府機関の家族・労働・福祉省の表敬訪問
- 日本へのインターンシップ派遣提携ニーズがある大学への訪問
- モンゴル文化体験

当財団では、技能実習生または特定技能人材として日本で就労する外国人材に対する更なる理解を深めるため、当該人材の出身国の状況や考え方について、実際に現地を訪問して体感することは非常に重要なことと考えています。是非この機会に、本調査団の一員としてモンゴル国への訪問をご検討ください。

介護職種の技能実習及び特定技能人材 の受け入れによる 日本の地域貢献・モンゴルにおける将来の展望

○地域への貢献

技能実習生及び特定技能人材の受け入れを通じて外国人材と受入れ組織や地域社会が交流することにより、共生社会の創造につながる。

○モンゴルにおける未来への展望

モンゴルは地場の産業が発展しているとはまだまだ言い難い国である一方、建設及び介護分野の人材育成に関しては大きな期待が寄せられている。広大な国土のインフラ整備のためには建設分野の人材が必要であり、日本同様に高齢化社会を踏まえた高齢者福祉施設の増加に対応するためには介護分野の人材が必要となる。

この両分野における日本の高度な技能を学び、それをモンゴルへ持ち帰る人材が益々増えることにより、良いバランスを保った更なる経済的な発展の実現に繋がると考える。

調査団の日程(予定)

日程	滞在場所	訪問先等
9月15日 (1日目)	日本 ウランバー トル	成田空港14:40出発 チンギス・ハーン国際空港 19:15着
9月16日 (2日目)	ウランバー トル	送り出し機関訪問 日本語教育施設視察 障がい者介護施設訪問 高齢者福祉施設訪問
9月17日 (3日目)	ウランバー トル	在モンゴル日本大使館訪問 家族・労働・社会福祉省訪問
9月16日 (4日目)	ウランバー トル	インターンシップ関連の大学訪問 モンゴル文化体験
9月17日 (5日目)	ウランバー トル 日本	チンギス・ハーン国際空港 07:00出発 成田空港12:55着

募集要項

1. 主催	公益財団法人 国際労務管理財団
2. 期間	2024年9月15日（日）～9月19日（木）（4泊5日）
3. 行程	※前項に記載
4. 訪問地	モンゴル国 ウランバートル市
5. 募集人数	3名程度
6. 参加費用	成田空港発着、約20万円（お一人様、航空券、ホテル代）＊概算費用となります。その他移動費や食事代の実費は参加者負担。詳細は別途ご相談申し上げます。
7. 同行者	今回のモンゴルにおける調査には次の当財団職員が同行します。 ○理事長 池田 英人 ○事務局次長 本山 敏美 ○東京事務所職員 ドルジ エルデネ
8. お問い合わせ	参加ご希望またはご関心をお持ちの方は、下記の連絡先までご連絡ください。 公益財団法人国際労務管理財団 東京事務所 TEL: 03-3354-4841 E-Mail: edorj@ipm.or.jp 事務局：ドルジ エルデネ（日本語対応可）



五方笑顔を表したロゴマークです。

「技能実習生」

「ご家族」

「受入企業」

「送出機関」

「監理団体」

の五方の笑顔を5枚の花弁を用いて表現しております。